



# 検査室からの お知らせ



気仙沼市観光キャラクター  
「海の子 ホヤほーや」



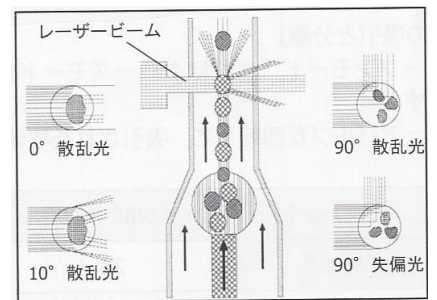
寒い冬が終わり、温かい春の訪れを誰もが心待ちにするものですが、花粉症の方にとってはあまり嬉しくない季節がやってきますね。

今回は末梢血検査について、測定原理や白血球血液像のお話しをしたいと思います。

WBC、RBC、PLTは光学チャンネル(フローサイトメトリー)で、Hbは吸光度法(555nm)で測定しています。フローサイトメトリーとは、希釈液の流れによって、血球や細胞といった粒子を一行に光ビーム中を通過させる過程をいいます。その際に発する散乱光で血球数をカウントし、また様々な角度のビームを照射することで白血球の形、大きさ、核の分度度、細胞内の複雑さを計測し5つに分類します。(機械像)

そして何らかの干渉物質や異常があり、結果が疑わしい場合は検査技師が顕微鏡により視算して結果を報告しています。PLTが10万/mm<sup>3</sup>未満の場合も鏡検し血小板凝集の有無を確認しております。

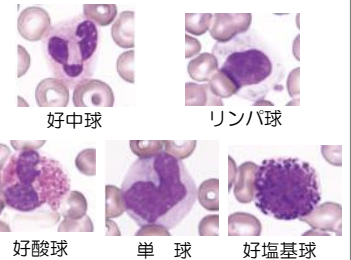
文責：菊池



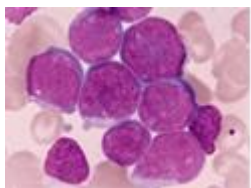
## 白血球分類について

### 正常な白血球

- 好中球 (Neu) 感染症などの炎症や慢性骨髄性の血液疾患などで増加
- リンパ球 (Lym) ウイルス性の感染症、リンパ性の血液疾患などで増加
- 単球 (Mon) 急性感染症の回復期で増加
- 好酸球 (Eos) アレルギー疾患、寄生虫疾患などで増加
- 好塩基球 (Bas) 慢性骨髄性白血病やアレルギー疾患などで増加

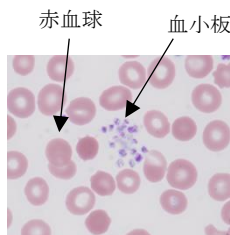


## 異常な細胞とは？



白血病細胞

正常な白血球と比べると、核が繊細で大きく、集塊をなしています。形態学的にもっとも幼若な細胞(芽球)で、健康な人の末梢血では観察されません。



血小板凝集

血小板は止血機構に関与し、その量的異常や機能の異常は出血や血栓の原因になります。

左図の血小板凝集のようになると、機械での測定時に真値より低値となります。そのため検査技師が目視で凝集の有無を確認しています。